

第6回「社会科教育研究の方法論の国際化プロジェクト」中間報告会

第2部

日本の社会科研究を どのように推進していくか －方法と成果の提案－

**日本型教科教育研究の特質を活かし、
課題を補う方法と事例**

草原 和博(広島大学)



本日の発表構成—構想論を超えて

1. 先行研究の到達点と問題の所在
2. 社会科学教育研究の諸類型
3. 研究・開発の2つの方法論
4. 研究・開発を志向した(私たちの)論文事例
 - (1) 原理的・規範的なアプローチ
 - (2) 実証的・経験的なアプローチ

⇒ 本日のメインはココです...資料1, 資料2
5. 日本の社会科学研究はどこに向かうか



1. 先行研究の到達点と問題の所在

米英と対比した日本の社会科研究の傾向性

- 桐谷(2012)

理論研究と実践研究で7割。調査研究は少ない

実践研究では、授業の構想と検証が主。1988年以降に急増

- 川口(2012)

開発志向<分析志向の(外国の)カリキュラムの研究

日本の社会科教育の可能性や方向性を拡大させるために

- 草原(2012)(2011)

実証的経験的研究よりも原理的規範的研究

研究(サイエンス)型よりも、研究・開発(エンジニアリング)型

- 藤田(2012)

英国では、「開発」は「研究」として評価されない

研究者の間では、「研究」と「実践」は乖離していく傾向



残された論点・争点



なぜ世界には、**多様な教科教育学・社会科研究**が要請され、また存立しているのか？ →2章

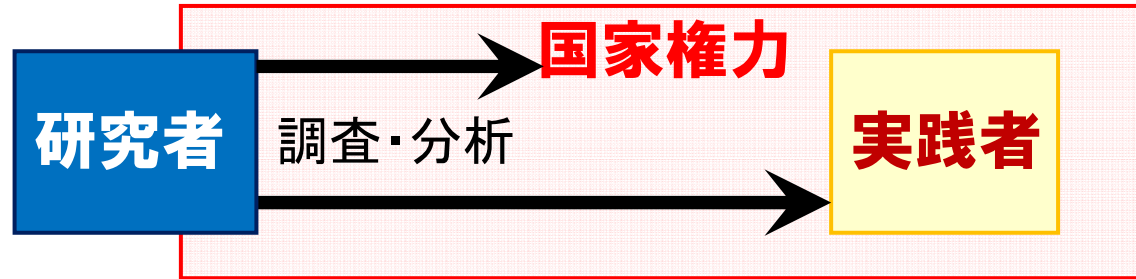
日本(全社学)の社会科研究の方法論には、**どうい**
う意義と、どういう限界があるか？ →3章

研究・開発型の**良さを活かし、課題を補う**ためには、
どのような研究を推進すべきか？ →4・5章

2. 社会科教育研究の諸類型

研究と開発, 研究者と実践者の関係に注目して

A



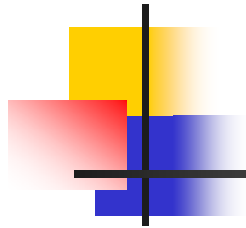


A: 研究・開発 **分離型** → **欧米先進国型**

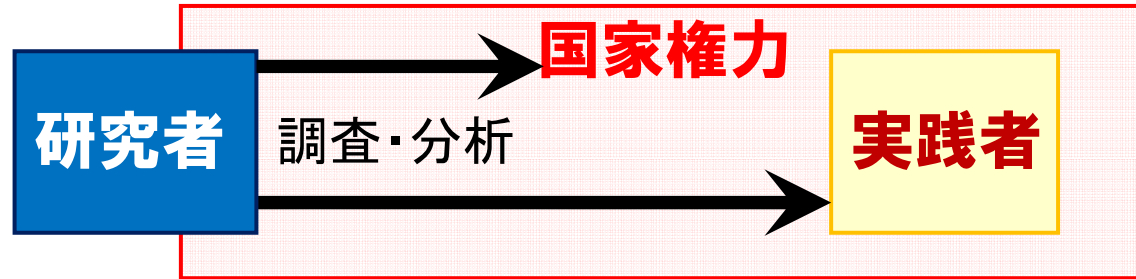
教科教育を対象化した調査・分析, 多様な問題関心

科学者, 教育者としての研究者...研究&教育がしごと

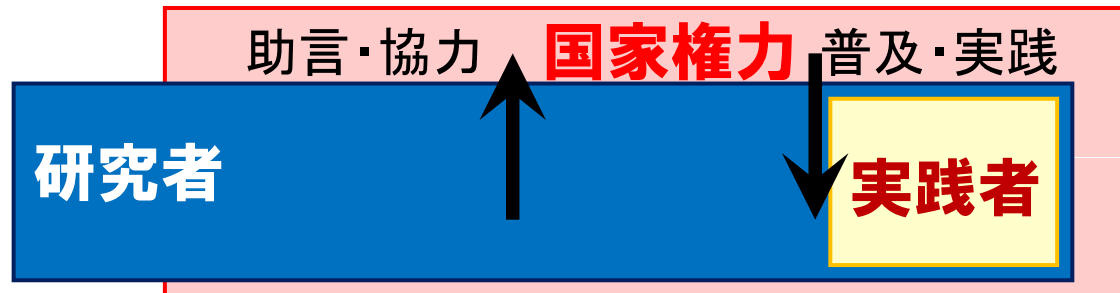
研究者と教師は, 自律と自由を享受している → **相互独立**



A



B





A: 研究・開発 分離型 → 欧米先進国型

教科教育を対象化した調査・分析, 多様な問題関心

科学者, 教育者としての研究者...研究&教育がしごと

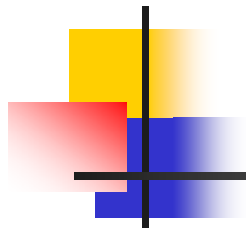
研究者と教師は, 自律と自由を享受している→相互独立

B: 研究・開発 統合型 → 途上国型

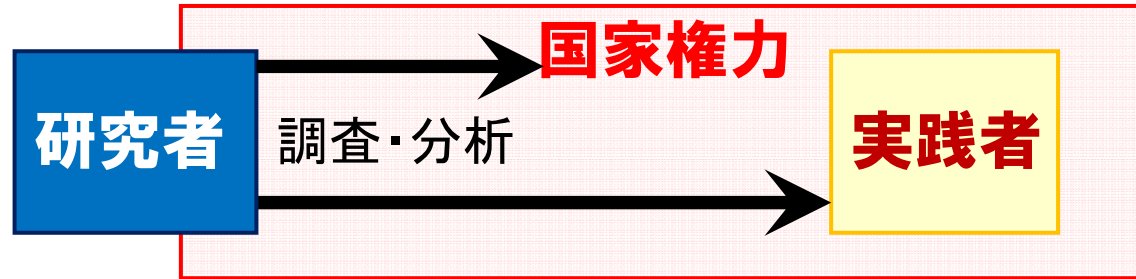
教科教育の開発と普及・実践, 共通の問題関心

テクノクラート(行政官), スーパーバイザ(熟達教員)としての研究者

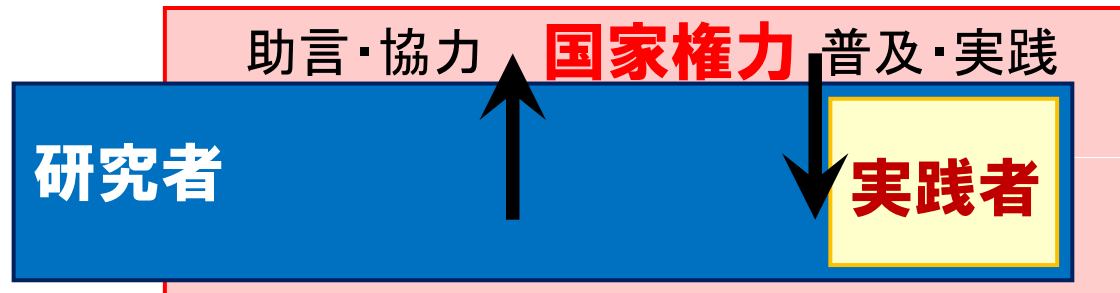
研究者と教師は, 政治的な統制下にある→相互連続



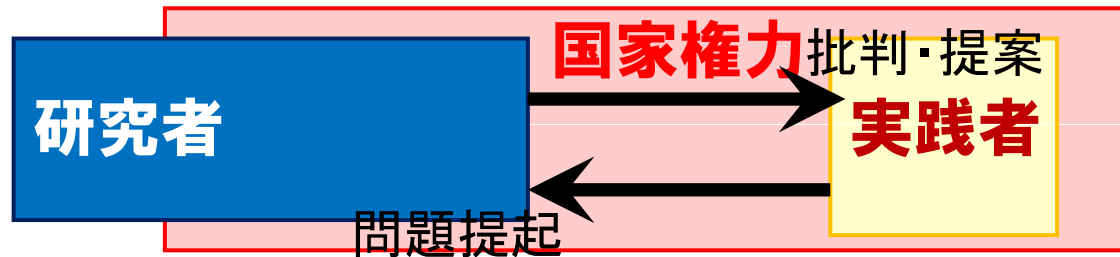
A



B



C





A: 研究・開発 分離型 → 欧米先進国型

教科教育を対象化した調査・分析，多様な問題関心

科学者，教育者としての研究者...研究&教育がしごと

研究者と教師は，自律と自由を享受している→相互独立

B: 研究・開発 統合型 → 途上国型

教科教育の開発と普及・実践，共通の問題関心

テクノクラート(行政官)，スーパーバイザ(熟達教員)としての研究者

研究者と教師は，政治的な統制下にある→相互連続

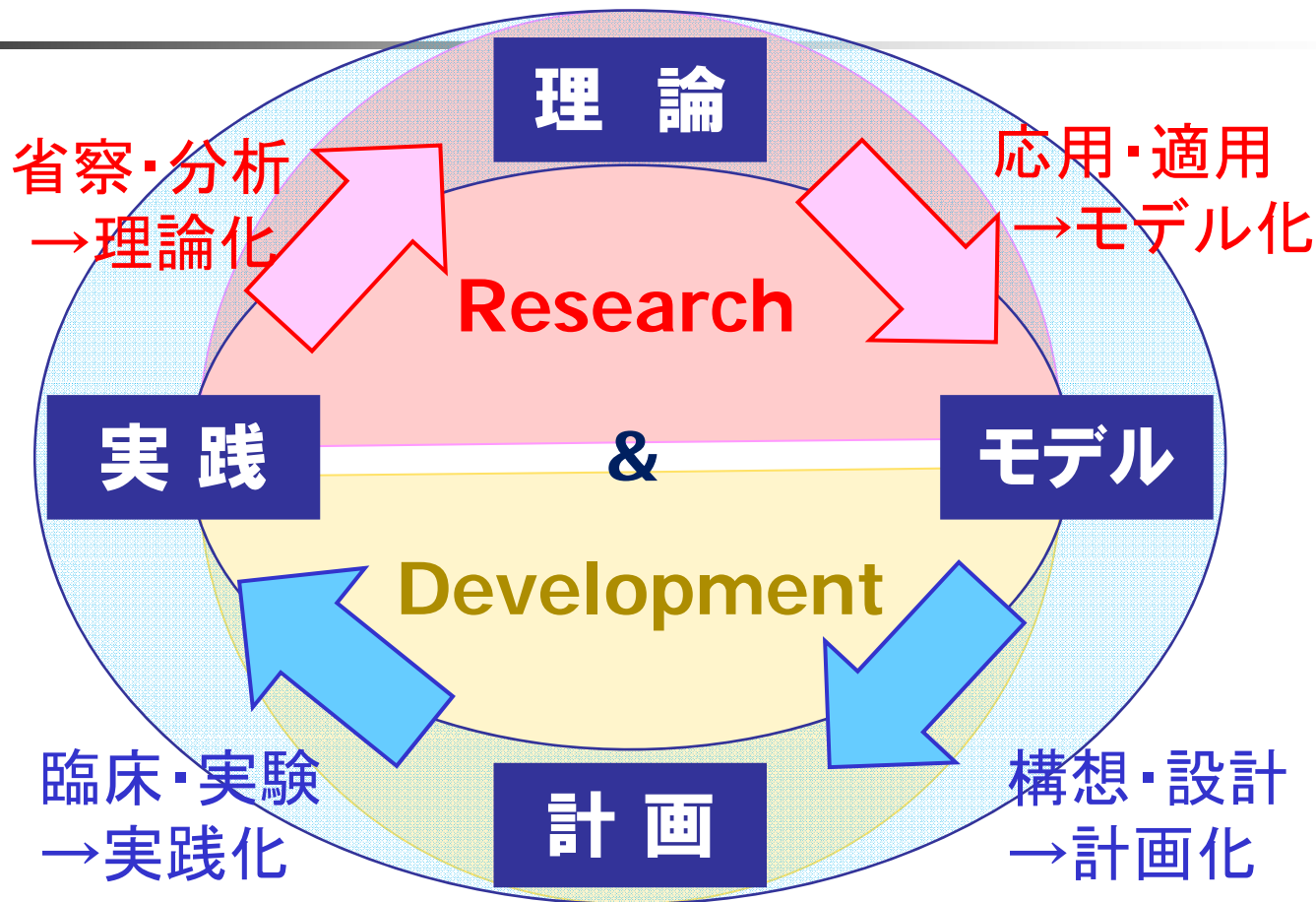
C: 研究・開発 架橋型 → 中間: 日本型

教科教育の理念・本質，変革・改善の方策の提起

コーディネータ，啓蒙的知識人としての研究者...社会サービスもしごと

研究者は自律と自由を享受，教師は政治的な統制下→解放

3. 架橋型の研究・開発の2つの方法論



成果物(product)を
デザインし、説明する



A: 研究・開発の成果物(product)のデザインと説明

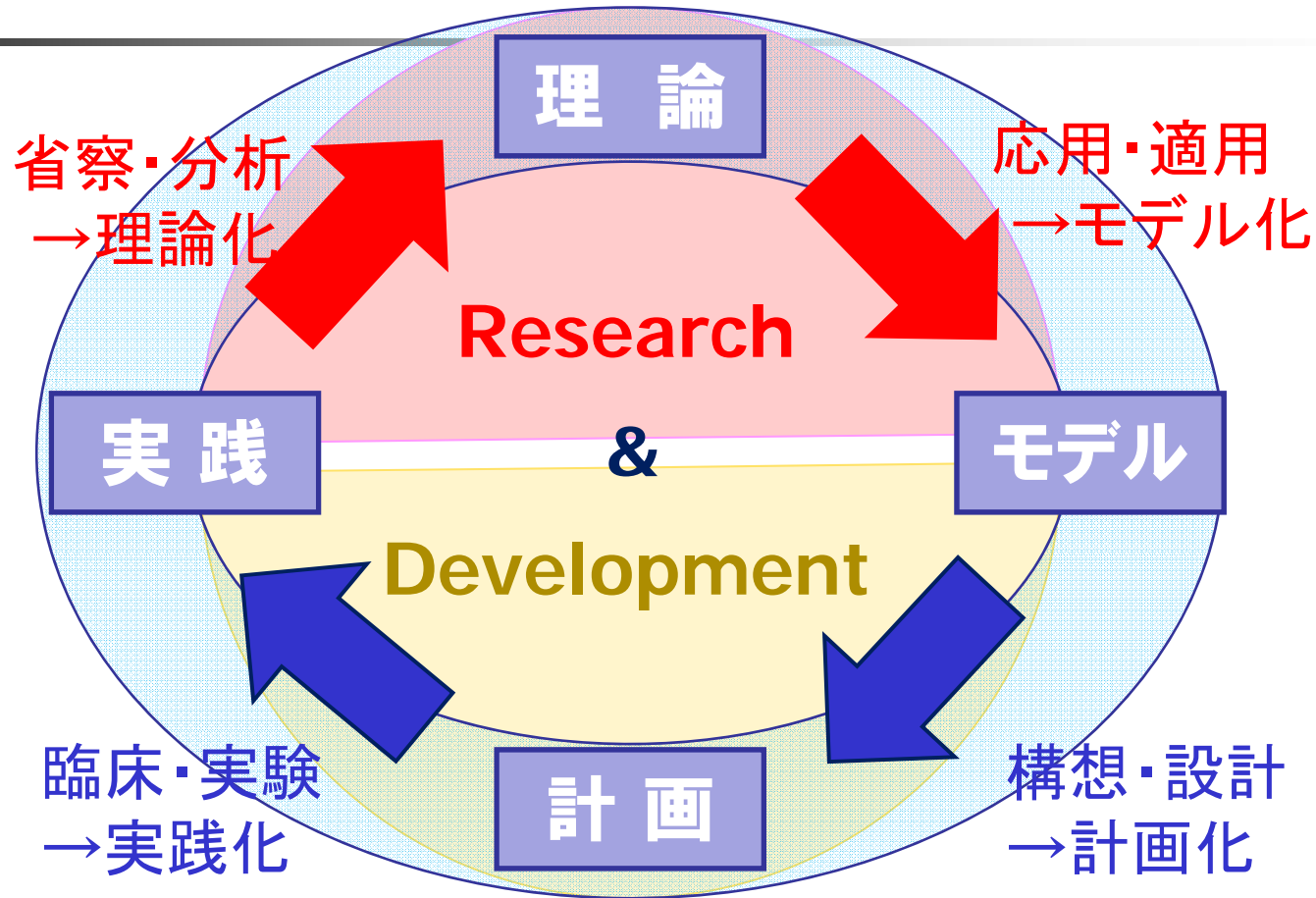
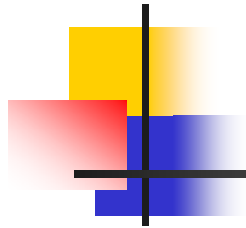
原理的・規範的なアプローチ

RQ: どうしたらいいか, なぜそうしたらいいのか?

「より良い」カリキュラム・授業の理論, モデル, 計画, 実践
をつくり, 提供する

相対化
メタ化

本当にそのデザインでいいのか?
なぜそういう理論・モデルが提起されるのか?
どのように計画・実践され, 評価されているか?



過程(process)を
記述し、説明する



A: 研究・開発の成果物(product)のデザインと説明

原理的・規範的なアプローチ

RQ: どうしたらいいか, なぜそうしたらいいのか?

「より良い」カリキュラム・授業の理論, モデル, 計画, 実践
をつくり, 提供する

相対化
メタ化

本当にそのデザインでいいのか?
なぜそういう理論・モデルが提起されるのか?
どのように計画・実践され, 評価されているか?

フィードバック

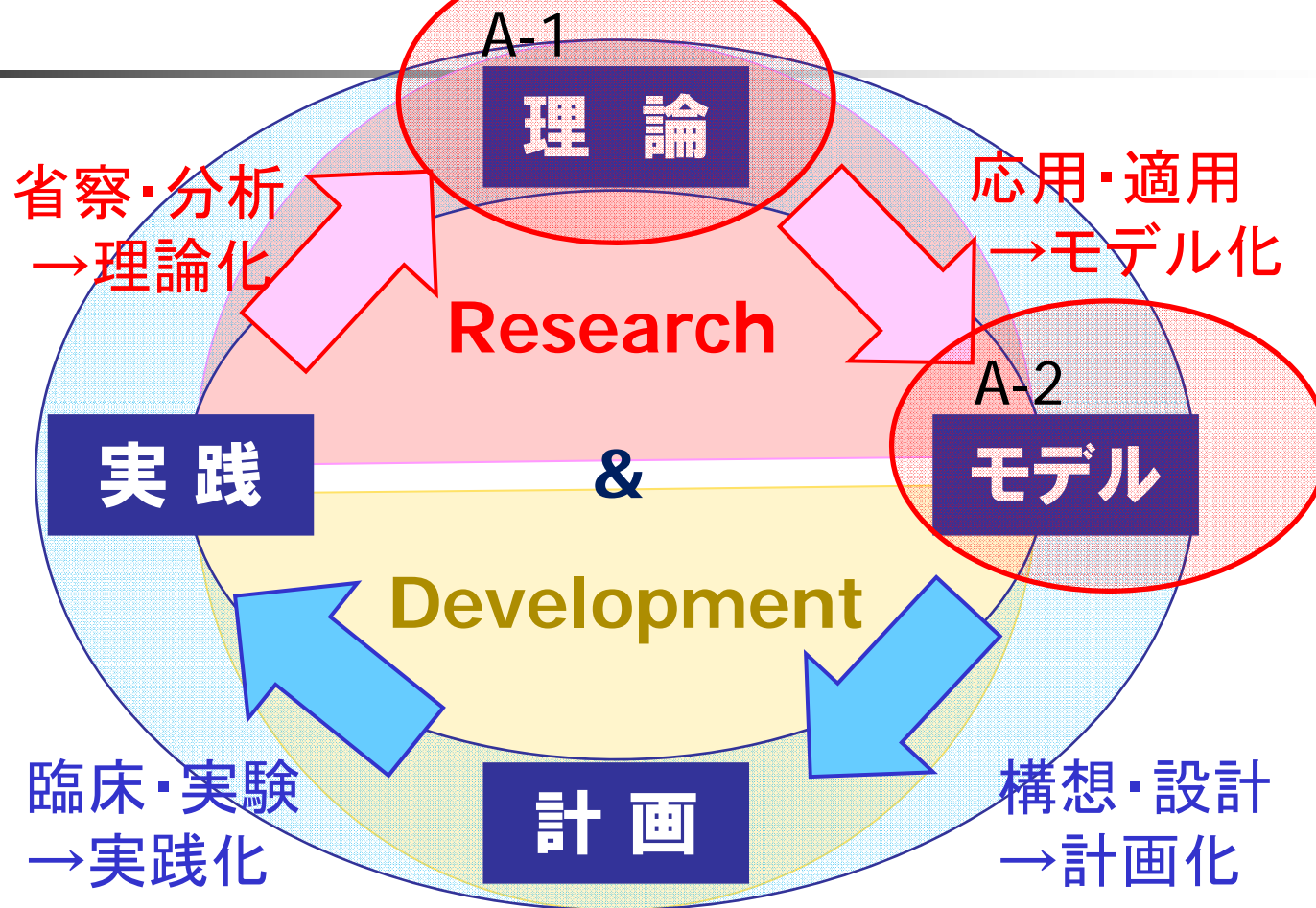
B: 研究・開発の過程(process)の記述と説明

実証的・経験的なアプローチ

RQ: なぜそうするといいか, そうするとどうなるか?

「より良い」を所与としない。良いカリキュラム・授業が
提起されてくる背景, 現に機能している状況を捉える

4. 架橋型の研究・開発を志向した論文事例



成果物(product)を
デザインし、説明する



研究・開発を通して得られた現行の代替策・デザイン案を
静態的にArtifactの形式で提案する

A: 原理的・規範的なアプローチ

1. 地理教育での社会(問題)研究の「先送り・棚上げ」問題を解決するには、カリキュラムをどのようにするといいか。オハイオ州のデザインを定式化しよう→**デザイン理論の抽出**

○「地理教育の公民教育化ー地域を単位にした総合的な社会研究ー」『社会科研究』(全国社会科教育学会)第66号, pp.11-20, 2007年。

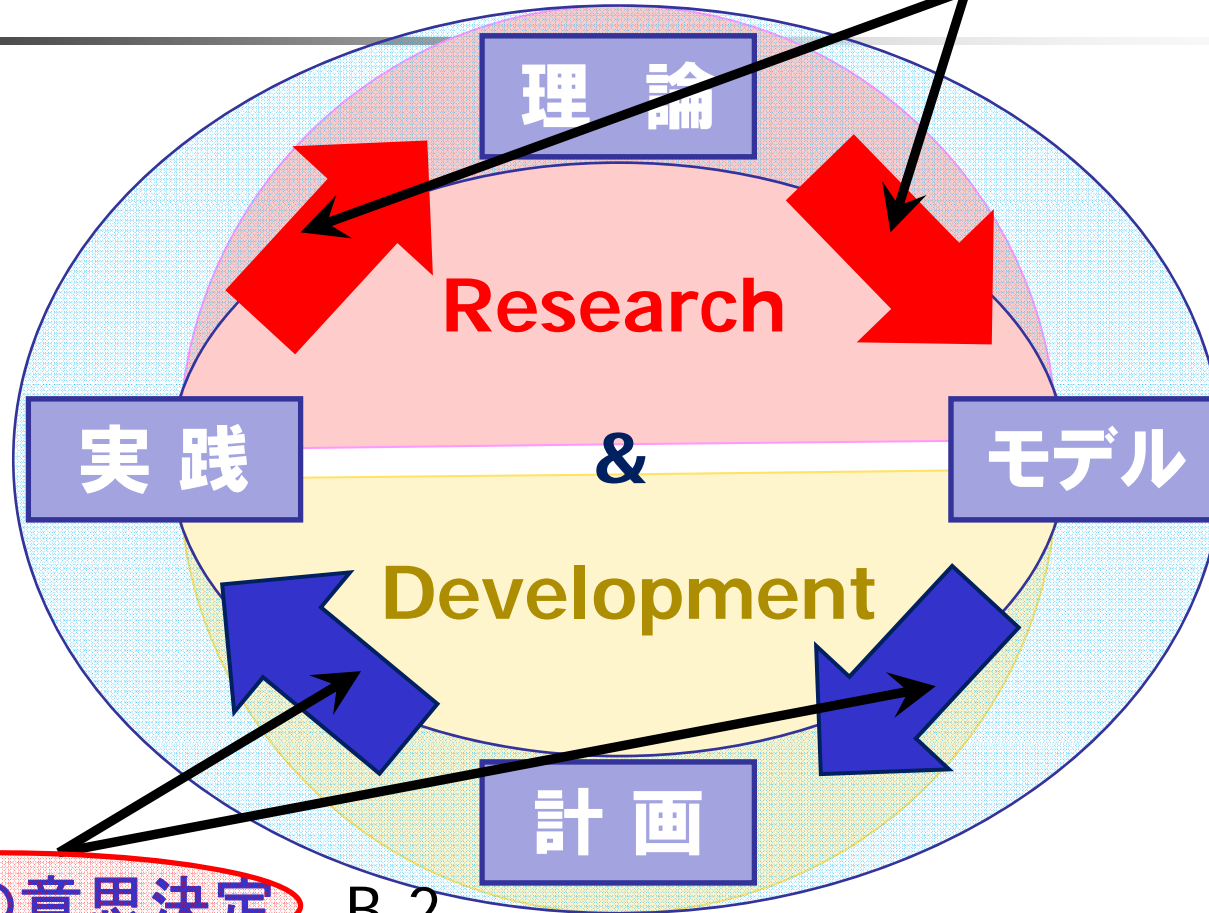
○「地理教育改革のオルタナティブー教科構造の原理的考察を踏まえてー」『社会系教科教育学研究』(社会系教科教育学会)第20号, pp.21-30, 2008年。

2. 地理教育の「社会化・公民教育化」に向けて日本で選択しうる&改善策となり得る、総合的な社会研究や社会科地理の授業・教材をデザインしよう→**デザインモデルの提案**

○「地理教育の社会化ーわが国の地理教育変革論の体系と課題ー」『社会系教科教育学研究』(社会系教科教育学会)第18号, pp.1-10, 2006年。

○「学習材の実際」『社会系教科目の授業実践を支援する学習材の開発』兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 共同研究プロジェクトI最終報告書, pp.47-65, 2011年。

政策立案者の意思決定
研究者の判断・選択 B-1



現職教師の意思決定
実習生の判断・選択 B-2

過程(process)を
記述し、説明する

研究・開発の原因・背景(Why?)やその影響・効果(Then?)を
動的にActorに焦点化して分析する

B: 実証的・経験的なアプローチ

1. 外国のカリキュラムを, 研究者はどのような意図・思想のもとで収集し, 何を解明してきたか & 何に貢献しようとしてきたか

→ **理論・モデル化の原因・背景の分析**

○「日本の社会科学研究の方法論的特質－シェーバーと森分の研究観の接点と相違を手がかりにして－」『社会科教育論叢』第48集, pp.97-108, 2012年。〈個人・質的〉

○「日本の社会科教育研究者の研究観と方法論－なんのために, どのように研究するか－」第61回全国社会科教育学会研究大会で発表予定。〈集団・量的〉

→ 全国の研究者は, なんのために, どんな問題意識で, 日米の実践を研究してきたか

2. 社会科地理の授業モデルを, 教師はどのように受けとめ, 評価・翻案し, 授業をデザインしていくか。なぜ意思決定に

違いが生じるのか → **計画・実践化への影響・効果の分析**

○「多文化的性格の地域を教師はどのように教えるか－社会科教師の意思決定の特質とその要件」『社会科教育研究』(日本社会科教育学会)第116号, 2012年刊行予定。

→ A市の教師5名は, 同一教科書「アジア」をいかにGatekeepingして教えたか

5. 日本の社会科学研究はどこに向かうか

私の主張

1. 日本型教科教育研究の「ウリ」である「研究・開発」=エンジニアリングを目的とした社会科学研究を推進すべき。
2. そのためには、従来型の課題を補うメタ研究にも取り組む。
(1)なぜこのような理論・モデルが提起されるのか、(2)それはどのように計画・実践されているか、(3)どうしたら自立的な研究・開発力は育つか、を考察することも必要。
3. 結果的に社会科学研究の範疇が、(1)政策・思想研究、(2)教師研究、(3)教師教育研究、まで広がる可能性。ただし、研究・開発を充実させる限りで。自己目的化は危険
4. 日本型教科教育研究の特質を社会科学の学問論・方法論の体系に位置づけ、第3極としてアピールしていくべき。

研究・開発の
(1)原因・背景
(2)影響・効果
(3)主体形成



主要参考文献

- 川口広美「「カリキュラム研究」からみた社会科研究の特質と課題－2000年～2011年の掲載論文の検討をもとに」『社会科教育論叢』第48集, 2012年, 37-46頁。
- 桐谷正信「『社会科研究』にみる社会科教育研究の動向」『社会科教育論叢』第48集, 2012年, 67-76頁。
- 草原和博「日本の社会科教育研究の動向と特質」『論文集 第1回全国社会科教育学会・韓国社会教科教育学会研究交流 日韓社会科教育研究の新しい動向』(全国社会科教育学会・韓国社会教科教育学会), 2011年, 49-74頁。
- 草原和博「日本の社会科研究の特質－シェーバーと森分の研究観の接点と相違を手がかりにして－」『社会科教育論叢』第48集, 2012年, 97-108頁
- 全国社会科教育学会編『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書, 2001年, 424頁。
- 棚橋健治「学的确立からみた社会科研究の方法論と国際化の課題」『社会科教育論叢』第48集, 2012年, 27-36頁。
- 藤田太郎「英国の数学教育研究と教員養成」『日本教科教育学会国際シンポジウム 要旨集』2012年, 1-21頁。
- 森分孝治「教科教育の研究」『教科教育学 I 原理と方法』建帛社, 1986年, 173-201頁。